

# 北九州市SDGs未来都市計画(2021~2023)

## 北九州市のSDGs戦略(ビジョン)達成に向けた取組

2030年の  
あるべき姿

【2021~2023年度の取組】

【3つの柱】

【基本的な考え方】

【具体的な取組例】

「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」

- ◆社会課題解決につながる「持続可能なビジネスが生まれ、育つまち」
- ◆ダイバーシティの推進による「みんなが活躍できるまち」
- ◆SDGsを踏まえた教育の実践による「未来の人材が育つまち」
- ◆環境と経済の好循環による「ゼロカーボンシティを目指すまち」
- ◆アジア諸都市を中心とした「世界のグリーンシティをけん引するまち」

**【経済】**  
「人と環境の調和により、新たな産業を拓く」



- (1) 先進のまちを目指した新たなビジネスやイノベーションの創出
- (2) 地域経済における自律的好循環の形成
- (3) 働く場の地方分散・柔軟な働き方の普及
- (4) 新たな企業価値を生み出すSDGs経営の普及

- ・風力発電関連産業の総合拠点化
- ・DX等を中心とした、スタートアップ・エコシステムの拠点化推進
- ・ロボット等の開発・改良及び導入
- ・自動運転関連産業の推進
- ・脱炭素化に向けたイノベーションの推進
- ・市内企業への就職促進、新たな働き手の確保
- ・企業立地の促進による雇用創出
- ・物流拠点都市としてのプレゼンス向上
- ・地方サテライトオフィスなどの受入体制支援
- ・テレワークの推進
- ・移住・定住の促進
- ・SDGs経営を先進的に取組むモデル企業の発信
- ・「(仮称)SDGsパートナーシップ制度」の構築
- ・「SDGs経営サポート」の活用
- ・「北九州SDGs未来都市アワード」等によるモデル事例の発信

**【社会】**  
「一人ひとりが行動し、みんなが輝く社会を拓く」



- (1) ダイバーシティの推進等による誰もが活躍できる場の創出
- (2) 市民参加型の活動による生活の質(QOL)の向上
- (3) 市民の健康(幸)寿命の延伸
- (4) 変革を支え、リードする教育・人材育成の推進
- (5) 感染症に対応した安心して暮らせる社会の構築

- ・ウーマンワークカフェ北九州を活用した女性活躍の推進
- ・誰もが働きやすいまちづくり
- ・文化・芸術を通じた相互理解による新たな未来の創造
- ・いきがい活動ステーション等を活用した高齢者のいきがいづくり
- ・障害のある人への総合的な支援
- ・災害に強いまちづくり
- ・子ども食堂の運営支援
- ・安全・安心のまちづくり
- ・健康づくり推進員の活動
- ・食生活改善推進員の活動
- ・喫煙者・受動喫煙の割合の減少
- ・SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成
- ・ESD活動の推進
- ・子どもに関する経済的・社会的な課題への対応
- ・感染症対策の推進

**【環境】**  
「世界のモデルとなる持続可能なまちを拓く」



- (1) 脱炭素エネルギーの安定的な供給体制の構築
- (2) 市民・企業との協働による循環システムの構築
- (3) コンパクトなまちの形成によるストック型社会の創造
- (4) 技術と経験を生かした国際貢献の推進

- ・エネルギーの脱炭素化
- ・再エネ100%電力化の実現
- ・住宅街区のスマート化促進
- ・風力発電関連産業の総合拠点化(再掲)
- ・世界をリードするエコタウンの形成
- ・地域環境活動の更なる促進
- ・ごみの減量と廃棄物発電
- ・集約型都市構造の形成
- ・ウォークアブルなまちの実現
- ・人と環境に優しい交通戦略推進
- ・都市のリノベーションの推進
- ・公共施設マネジメントの推進
- ・官民連携による海外水ビジネスの展開
- ・「アジア低炭素化センター」を核とする環境改善の取組
- ・石けん系泡消火剤など世界に展開する商品の開発

# 北九州市のSDGs戦略(ビジョン)達成に向けた取組

2030年のあるべき姿

側面	基本的な考え方	北九州市ローカル指標		現在値		目標値		具体的な取組例
		2023	2030	2023	2030	2023	2030	
【経済】「人と環境の調和により、新たな産業を拓く」	(1) 先進のまちを目指した新たなビジネスやイノベーションの創出	再生可能エネルギー導入量	288,000 kW (2018.7)	470,000 kW	700,000 kW	今後検討		・風力発電関連産業の総合拠点化 ・DX等を中心とした、スタートアップ・エコシステムの拠点化推進 ・ロボット等の開発・改良及び導入 ・自動運転関連産業の推進 ・脱炭素化に向けたイノベーションの推進
	(2) 地域経済における自律的好循環の形成	起業件数 (創業件数)	317件 (2019)	340件 (2023)	今後検討			
		従業者一人あたり市内GDP	8,481千円 (2016)	今後検討	9,320千円			
		市内新規雇用者数	22,628人 (2015~2019)	30,000人 (2020~2024)	今後検討			
市内企業への新卒就業者数		4,106人 (2019)	4,600人 (2024)	今後検討				
温室効果ガス排出量の削減率 (2005年度比)		▲1.6% (2017) ※2005年基準	今後検討	策定中				
(3) 働く場の地方分散・柔軟な働き方の普及	実質公債費比率	9.9% (2019)	今後検討	今後検討				
	将来負担比率	170.8 (2019)	今後検討	今後検討				
(4) 新たな企業価値を生み出すSDGs経営の普及	社会動態の増減	▲757人 (2020)	社会動態プラスの早期達成及び維持					
	「北九州市に住んでよかった、ずっと住み続けたい」と答えた市民の割合	82.0% (2020)	90%以上 (2024)	今後検討				
【社会】「一人ひとりが行動し、みんなが輝く社会を拓く」	(1) ダイバーシティの推進等による誰もが活躍できる場の創出	(仮称)SDGsパートナーシップ制度登録企業数	0	300	500			・SDGs経営を先進的に取組むモデル企業の発信 ・「(仮称)SDGsパートナーシップ制度」の構築 ・「SDGs経営サポート」の活用 ・「北九州SDGs未来都市アワード」等によるモデル事例の発信
		市民のSDGs認知度	44.9% (2020)	毎年向上	70.0%			
		保育所持機児童数	0 (2020.4)	0	0			
		女性就業率	70.0% (2015)	73.0%	増加			
北九州市の付属機関等の女性委員の参画率		53.1% (2020.7)	各付属機関等々で50%以上	維持				
(2) 市民参加型の活動による生活の質(QOL)の向上	女性管理職比率 (市職員)	13.1% (2019)	15.0%	40.0% (2040)			・ウーマンワークカフェ北九州を活用した女性活躍の推進 ・誰も働きやすいまちづくり ・文化・芸術を通じた相互理解による新たな未来の創造 ・いきがい活動ステーション等を活用した高齢者のいきがいづくり ・障害のある人への総合的な支援	
	北九州イクボス同盟加盟企業数	170社 (2021.3)	300社	今後検討				
(3) 市民の健康(幸)寿命の延伸	福祉施設から一般就労への移行	229人 (2019)	今後検討	今後検討				
	【再掲】社会動態の増減	▲757人 (2020)	社会動態プラスの早期達成及び維持					
(4) 変革を支え、リードする教育・人材育成の推進	【再掲】「北九州市に住んでよかった、ずっと住み続けたい」と答えた市民の割合	82.0% (2020)	90%以上 (2024)	今後検討				
	世代別の地域活動参加率	42.1% (2019)	今後検討	今後検討				
(5) 感染症に対応した安心して暮らせる社会の構築	人口1人当たりの刑法犯認知件数 (刑法犯認知件数/総人口)	6,127件 (2019.12)	4,500件以下	政令市ベスト3 (2024)			・災害に強いまちづくり ・子ども食堂の運営支援 ・安全・安心のまちづくり	
	健康寿命	男性 71.93年 女性 74.01年 (2016)	今後検討	今後検討			・健康づくり推進員の活動 ・食生活改善推進員の活動 ・喫煙者・受動喫煙の割合の減少	
【環境】「世界のモデルとなる持続可能なまちを拓く」	(1) 脱炭素エネルギーの安定的な供給体制の構築	1人あたり公園面積	12.63㎡	今後検討	今後検討			
		「子育てしやすいまち」と感じる市民 (子育て世代) の割合	88.6% (2019)	90%以上 (2024)	今後検討			
	(2) 市民・企業との協働による循環システムの構築	子どもの役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合	小:94.4% (全国95.2%) 中:95.5% (全国94.3%) (2019)	全国平均以上	全国平均以上			・SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成 ・ESD活動の推進 ・子どもに関する経済的・社会的な課題への対応
		【再掲】市民のSDGs認知度	44.9% (2020)	毎年増加	70.0%			
(3) コンパクトなまちの形成によるストック型社会の創造	【再掲】再生可能エネルギー導入量	288,000 kW (2018.7)	470,000 kW	700,000 kW			・エネルギーの脱炭素化 ・再エネ100%電力化の実現 ・住宅街区のスマート化促進 ・風力発電関連産業の総合拠点化 (再掲)	
	公共施設再エネ100%電力化達成率	0% (2021.3)	100% (2025)	維持				
(4) 技術と経験を生かした国際貢献の推進	【再掲】温室効果ガス排出量の削減率 (2005年度比)	▲1.6% (2017) ※2005年基準	今後検討	策定中				
	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (2019)	今後検討	策定中			・世界をリードするエコタウンの形成 ・地域環境活動の更なる促進 ・ごみの減量と廃棄物発電	
【環境】「世界のモデルとなる持続可能なまちを拓く」	(3) コンパクトなまちの形成によるストック型社会の創造	ごみのリサイクル率 (かん・びん・ペットボトルなど)	28.0% (2019)	今後検討	策定中			
		空き家率	15.8% (2018)	今後検討	今後検討			・集約型都市構造の形成 ・ウォーカルなまちの実現 ・人と環境に優しい交通戦略推進 ・都市のリノベーションの推進 ・公共施設マネジメントの推進
【環境】「世界のモデルとなる持続可能なまちを拓く」	(4) 技術と経験を生かした国際貢献の推進	【再掲】「北九州市に住んでよかった、ずっと住み続けたい」と答えた市民の割合	82.0% (2020)	90%以上 (2024)	今後検討			
		感染症患者研修会参加施設数	441施設 (2019)	今後検討	今後検討			・官民連携による海外水ビジネスの展開 ・「アジア低炭素化センター」を核とする環境改善の取組 ・石けん系泡消火剤など世界に展開する商品の開発

「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
 ◆ 社会課題解決につながる「持続可能なビジネスが生まれ、育つまち」  
 ◆ ダイバーシティの推進による「みんなが活躍できるまち」  
 ◆ SDGsを踏まえた教育の実践による「未来の人材が育つまち」  
 ◆ 環境と経済の好循環による「ゼロカーボンシティを目指すまち」  
 ◆ アジア諸都市を中心とした「世界のグリーンシティをけん引するまち」

